

学会ニュース

目次

・第38回大会について	1
・ワークショップのご案内	2
・事務局より	4

第38回大会について

来年度の第38回大会は2016年6月18日（土）、19日（日）の両日、愛知県立大学で開かれる予定です。開催校責任者は大野誠会員です。

共通論題について

来年度の共通論題「18世紀—持続と切断（仮）」では、開催校からの提案にもとづき、18世紀研究の対象となる時代の時間的枠組み、固有の意味や前後の時期との関係を、歴史的、思想的、文化的動向や人々の意識に即してとらえ直すことをめざします。報告者は現在のところ以下の方々が決定しており、さらに1名程度増える予定です。コーディネーターは検討中です。

[報告者]

イギリス 坂下 史（東京女子大学）

スペイン 奥野良知（愛知県立大学）

東アジア 渡辺 浩（法政大学）

自由論題公募要領

第38回大会で発表を希望される会員は、1000字以内の発表要旨をつけて、**2016年3月4日（金）**までに学会事務局宛、郵便かメールでお申し込みください。郵送の場合は要旨のプリントアウト原稿および電子ファイル（「ワード」形式で作成されたもの）の両方をお送りください。メールの場合は、要旨を添付ファイル（「ワード」形式）またはメール本文にコピーしてお送りください。報告の採用の可否については幹事会で審査し、事務局から後日お知らせいたします。

発表は1件につき50分、うち報告が40分、質疑応答が10分の予定ですが、申込者が多数の場合は、個々の発表の時間を短縮したり、あるいはこれまでの発表の有無、共通論題を含む諸分野のバランスなどを勘案して、幹事会で調整させていただくこともありますので、この点はあらかじめご了承くださいませよう、お願い申し上げます。また会場で配布されるコピー資料は、原則としてご自分でご用

意いただくことになっています。

詳細はプログラムが決定され次第、事務局から個々に連絡申し上げます。

ワークショップのご案内

ワークショップ デジタル / アナログ・ヒューマニティーズ

The Workshop on the Promotion of Digital Humanities

and the New Possibility of “Analogue” Humanities

オーガナイザー：深貝保則（横浜国立大学）

昨年6月の日本18世紀学会第37回（東京大学）の折に、ミニ・シンポジウム「デジタル資料の展開と古典研究の可能性に向けて－思想／文芸／歴史研究と手法としての情報－」を開催致しました。多くの方々にご参加いただき、厚くお礼申し上げます。

そのミニ・シンポジウムからの発展として、デジタル・ヒューマニティーズの展開を見据えつつ人文知にとっての意味と可能性を考えるため、2月10日（水）にアムステルダムおよびオックスフォードからお二人の方を招き、ワークショップを開催致します。下記に仔細を記しますように2月10日（水）に、会場を東京・竹橋の国立情報学研究所の会議室としての開催です（10時10分受付開始、10時30分開会）。多くの方にご参加下さりたく、ご案内申し上げます。

準備および建物への入館の都合上、参加ご予約の方は下記アドレス宛で、

a) 件名に 「2月10日ワークショップ」 とご記入いただき、

b) 本文に

- ① ご氏名
- ② ご職業、ご所属
- ③ 連絡先 e-mail アドレス
- ④ ご専門、ないしワークショップへの関心

を記載のうえご送信下さい。

また、お問合せも同じアドレスにご一報ください。2月5日以降を目安にお返事を申し上げます。

※申し込み・お問い合わせ：dighuman2016@ynu.ac.jp

以下、ワークショップの概要です。

The Workshop on the Promotion of Digital Humanities

and the New Possibility of “Analogue” Humanities

日：2016年2月10日（水）

会場： 国立情報学研究所 12階 1208・1210会議室

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

東京メトロ半蔵門線／都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A9出口

東京メトロ東西線「竹橋」1b出口

徒歩3～5分

<http://www.nii.ac.jp/about/access/>

受付開始： 10時10分

開会： 10時30分

終了予定： 16時00分

報告者： Inger Leemans (Vrije Universiteit Amsterdam アムステルダム自由大学)

Atsuko Tamada (Chubu University 玉田敦子 中部大学)

Satoko Tokunaga (Keio University 徳永聡子 慶應義塾大学)

Pip Willcox (Bodleian Library, Oxford オックスフォード大学ボードリアン図書館)

Yasunori Fukagai (Yokohama National University 深貝保則 横浜国立大学)

(プログラムの仔細は決まり次第、横浜国立大学附属図書館のホームページ上に掲載します。)

使用言語： 英語

趣旨：

近年、人文社会科学系の古典書籍についてもデジタル画像や解読を施したデータ・ベースが普及し、関連領域の研究において活用が図られている。学術情報基盤の整備の面でいえば、そのうち有償で高額なもの数点についてはすでに **JUSTICE** (大学図書館コンソーシアム連合) という枠組みによって、各研究機関に導入・活用の便宜が提供されている。これと並んで、書籍ばかりでなく絵画や古写真、草稿などを含む古典的な貴重資料などを画像化して情報解析を行ない、あるいは web 上に公開することによって学問的な検討に付す試みは、デジタル・ヒューマニティーズと呼ばれて関心を集めつつある。では、デジタル・ヒューマニティーズの領域と向き合うなかで、従前の蓄積を備えた文芸 / 歴史 / 思想などの研究領域は何を引き出し、何を提供しうるのであろうか。

デジタル化の進展と向き合うことによって人文的な知がどのような展開可能性を秘めているのか、また、無意識的なエラーの可能性を避けるためには従前には問題にならなかったような事柄についていかに注意深くしなければならないのか、などをめぐって検討を行なう。従前型の研究スタイルの側からの創造的な発展の可能性を探るという課題を陽表面化するために、本ワークショップ主催者の責任のもとで目安として、アナログ・ヒューマニティーズという用語にポジティブな含意を持たせて（さしあたりは“analogue”と引用符付きで）提示する。

このワークショップの開催に当たって、国際18世紀学会大会（2015年7月、ロッテルダム）においてデジタル・ヒューマニティーズのパネルを組織した **Professor Inger Leemans**、および オックスフォード大学ボードリアン図書館においてデジタル・テキスト解析のプロジェクトを担う **Ms. Pip Willcox** のお二人を招聘する。

報告は、デジタル・ヒューマニティーズの展開を踏まえた18世紀研究の可能性 (**Inger Leemans**)、フランス語文献を中心としたデジタル・テキストの現状と可能性 (**Atsuko Tamada**)、中世英語文献の電子解読テキストの持つ学術的な意味 (**Satoko Tokunaga**)、オックスフォード大学ボードリアン図書館で展開しているテキスト解読プロジェクト、とくに **EEBO-TCP**, **ECCO-TCP** についての紹介 (**Pip Willcox**) を配し、最後にアナログ・ヒューマニティーズとデジタル・ヒューマニティーズとのインターアクションに向けて考える (**Yasunori Fukagai**)。

また当日は、**JUSTICE** の提供する古典的書籍データ・ベースのコンソーシアムおよび 国立情報学研究所が提供する電子的コンテンツのプラットフォーム **NII-REO** について、**JUSTICE** 事務局からご説明をいただく。目下コンソーシアムの対象となっている **MOMW II (The Making of the Modern World – II)** や **ECCO (Eighteenth Century Collection Online)** をはじめ、今後の可能性を考えるうえでも参考になることを期待したい。

なお、このワークショップは国立情報学研究所公募型共同研究「情報学の知見を活かした人文社会科学古典デジタル・テキスト分析の研究開発」（研究代表者・深貝保則・横浜国立大学附属図書館長）により開催されるものである。



事務局より

業績アンケートについて

『年報』に会員の業績を掲載するために、例年この時期にアンケートを行っています。同封の用紙の要領に従って、回答をお願いします。締め切りは3月4日(金)です。データの整理のため、早めにお返事いただければ幸いです。(3月刊行分は予定でもかまいません。また、次年度号に掲載していただくこともできます。)

会費納入のお願い

学会ニュースの発送とあわせて、会費未納の方には、その年数に応じた金額を印字した払い込み用紙を同封させていただいています。学会の活動は皆様の会費によって支えられています。事務局におきましても円滑な学会運営のため、身を引き締め変わらず努力する所存ですが、会員の皆様にはどうか苦しい学会の財政事情をご理解いただき、会費納入にご協力をお願い致します。

<郵便口座振替で振り込む場合>

口座記号番号：00800-7-183350 口座名称：日本18世紀学会事務局

<銀行等から振り込みする場合>

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇八九店 (ゼロハチキュウテン)

預金種目：当座預金 口座番号：0183350

『年報』への論文投稿について

すでにご存じと思いますが、数年前から、大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できるようになりました。詳しくは『年報』末尾の投稿規程をご覧ください。

国際18世紀学会について

ISECS2015 (第14回国際18世紀学会) では会員による多数のセッション、自由報告がおこなわれました。会員の皆様の国際学会報告につきましては欧文報告集を作成中です。また国際執行委員会選挙では、初の女性会長Lise Andries氏が就任しました。

投書欄について

この「学会ニュース」に投書をしていただくこともできます。たとえば以下のような内容の投書が可能です。

- ・学会や事務局への意見、提案、希望など。
- ・掲示板：研究会の呼びかけ、行事の広告、情報提供の依頼 (たとえば「『〇〇』という本を探しています」など)。会員同士の連絡にご利用ください。

いずれも事務局までお申込み下さい。

なお、以前の「『百科全書』研究会」のように、チラシや案内文書を「学会ニュース」に同封することも可能です。年3回の発行なので緊急の案内には適しませんが、全会員にお届けできます。(経費等の都合上、枚数の少ないものに限ります。)

共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事まで。（ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。）

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。（特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。）

学会ニュースのエッセー

今のところ、事務局から執筆をお願いしていますが、会員の皆さんからの希望も受け付けています。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。（編集の都合上、12月号は10月半ばまでに、4月号は2月初めまでに、9月号は7月半ば頃までにご希望をお寄せください。）

年会費

日本18世紀学会の年会費は5,000円です。年会費について証明をご希望の方は、『年報』末尾またはホームページの「会則及び役員選出に関する細則」附則の項を印刷してご利用ください。

寄付のお願い

前号以来、以下の方から寄付がありました。お礼申し上げます。

匿名希望 200口

計 200口 200,000円

また寄付を希望される方は、別紙要領をご覧ください。

学会への献本

学会宛に以下の図書をいただきました。お礼申し上げます。

- ・笠谷和比古（編）『徳川社会と日本の近代化』、思文閣出版、2015年、730頁
- ・松山壽一『造形芸術と自然 ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』、法政大学出版局、2015年、300頁
- ・ギョーム＝トマ・レナール著、大津真作訳『両インド史 西インド編／上巻』、法政大学出版局、2015年、834頁
- ・ロンルド・L・ミーク著、田中秀夫監訳、村井路子・野原慎司訳『社会科学と高貴ならざる未開人 18世紀ヨーロッパにおける四段階理論の出現』、昭和堂、2015年、336頁

新入会員の方へ

毎年6月の幹事会で入会を承認された方はその年度からの会員となります。6月の幹事会以降に入会を申し込まれた方は12月の幹事会で承認され会費については次年度からの会員扱いになりますので、会費の請求はありませんが、他の会員同様に諸種の配布物をお届けいたします。

新会員の勧誘のお願い

ぜひ18世紀研究に関心のある方を本会にご勧誘ください。入会申込用紙は日本18世紀学会ホームページからダウンロードできますので、よろしくお願いたします。

メーリングリスト

日本18世紀学会では学会や研究会のお知らせ、ヴォルテール財団からの連絡などをメールによって会員の方々にお知らせしております。ご希望の方は事務局までご連絡をお願いいたします。なお、これまでメーリングリストより配信されていたにも関わらず最近メールが届かないという方、またご希望にもかかわらず、メールをお受け取りになっていない方はお手数ですが、事務局までご連絡をお願いいたします。また、メールアドレスを変更された場合もお知らせください。

幹事会メンバー(50音順)：出羽尚、王寺賢太(国際幹事)、大石和欣(常任幹事)、隠岐さや香、小田部胤久(国際学会執行委員)、川島慶子、小関武史(常任幹事、年報担当)、斉藤渉、坂本貴志(常任幹事、年報担当)、武田将明、玉田敦子(常任幹事)、寺田元一(東アジア交流担当)、長尾伸一(代表幹事)、馬場朗、逸見龍生(常任幹事、年報担当)

会計監査：安室可奈子、真部清孝

日本18世紀学会ニュース 第80号 2016年2月発行
発行者 日本18世紀学会 代表者 長尾伸一
事務局 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院経済学研究科 日本18世紀学会事務局
e-mail: jsecs.nagoya.uni@gmail.com
tel: 052-789-2380
fax: 052-789-4924
<http://www.gakkai.ac/jsecs/>